

光学用 酸フリー型粘着剤

【ダイカラック5250,5021,5022】は、アクリル酸エステル系共重合物を主成分とした溶剤型粘着剤です。
酸成分を含有していないためタッチパネル用のITO膜を劣化させません。

<特長> 酸フリー、耐人工皮脂性、耐湿熱白化性、ITO耐腐食性

製品名		ダイカラック5250		ダイカラック5021		ダイカラック5022		
理論Tg(℃)		-25		-45		-60		
溶剤		酢酸エチル		酢酸エチル		酢酸エチル		
一般物性	外観	無色透明		無色透明		無色透明		
	不揮発分(%)	40		30		30		
	粘度(mPa・s/25℃)	14,000		6,000		3,000		
粘着特性	硬化剤量 (g/30%粘着剤100g※)		0.05	0.10	0.05	0.10	0.05	0.10
	粘着力(N/25mm)	PMMA	16	16	15	15	13	12
		ガラス	20	20	21	20	16	13
	耐ITO腐食性		0.1	0.1	0.3	0.1	0.2	0.2
	耐湿熱白化性〔ヘイズ〕		○〔0.3〕	○〔0.3〕	○〔0.4〕	○〔0.3〕	○〔0.3〕	○〔0.1〕
	耐人工皮脂性		○	○	×	×	×	×

(上記数値は代表値であり、規格を示すものではありません)

【ダイカラック5250】での弊社推奨硬化剤[コロネートHX]部数は、0.05~0.10 部です。

※硬化剤部数の単位は、g/30%粘着剤100g ですのでご注意下さい。

【5021, 5022】と表記を合わせるため、g/30%粘着剤100g としております。

0.10 g/30%粘着剤100g = 0.13 g/40%粘着剤100g となります。

粘着物性測定方法：JIS Z-0237に準拠 (測定温度/湿度 23°C/50%)

粘着シート構成：<基材> コロナ処理PET25μm / <粘着剤> 50μm(dry) / <セパレーター> PET38μm

イソシアネート系硬化剤：コロネートHX、HDI系無黄変タイプ、固形分100%、NCO含有率21%

硬化剤添加量：30%粘着剤100部に対して添加(有姿) エージング：50°C×48時間

粘着力：180°引き剥がし法 (300mm/min) <被着体>PMMA板・ガラス板

ITO耐腐食性：アモルファスITOフィルムに粘着シートを貼付し60°C・90%RH環境下1,000時間放置 湿熱前と湿熱1,000時間後の抵抗値変動率を算出

耐湿熱白化性：60°C・95%RH環境下1,000時間後の皮膜状態を目視確認。○：白化無し、△：僅かに白化、×：白化 ヘイズ値は初期値との変動差を記載

耐人工皮脂性：被着体ガラスに粘着シートを貼付し2kgローラー1往復で圧着。粘着剤層側面に「人工皮脂液」を多めに塗布。

85°C85%RH×48hr後状態を確認。膨潤、剥れの確認が困難であったため、基材端部をメクレ方を確認。

○：メクレ1mm以下 △：メクレ1~5mm以下 ×：メクレ5mm以上 「人工皮脂液」：トリグリセリド/イノステアリン酸/スクアラン 配合物。



大同化成工業 株式会社
<http://www.daido-chem.co.jp>

本社 大阪市西淀川区竹島4丁目4-28 TEL. 06(6471)7755(代)
東京営業所 東京都千代田区内神田3丁目2-8 TEL. 03(3258)1955(代)